つて居た熱海の間歇泉も前日に勢力を増加し地震後全く勢力を回復して數日間間斷なく噴出しその後間歇の性質を帯びて來ました。その外に熱海にも伊東にも新しい湯が出來ました。伊豆山は熱海の少しく北ですが當日朝著しく溫度上り入浴し得ない程でしたが地震で埋没し、その後掘つても出ませんでした然し湯の口を掘り下げてやつと出るやうになつたそうです。

震源 これは未だ定めない方がよいでせうと思ひますから尙一層研究の上發表する筈です。然し相州海岸に近い處であらうと思ひます。伊豆大島東方沖てはありません。又大島西方でもないやうです。秩父連山も無條件に承認出來ないやうです。

九月一日横濱の烈震

荻原 壽

On the Great Earthquake as felt at Yokohama

by Hisasi OGIWARA

罹災顛末 横濱は大正十二年九月一日朝は雨霽れ午前九時三十分頃より南西の強風吹起し爾後次第に募りしが同十一時五十八分三十秒突如烈震を感じたり當所地震計は發震後間もなく破壊したために驗測全く不能に歸せしは甚だ遺憾とする所なり震動は最初に上下動最も激烈なりしたため家屋の倒壊極めて多く殊に市内多數の煉瓦或は石造等の建築物は第一の震動に於て直ちに崩壊したるを以て夥しき壓死者を出し酸鼻を極む。大震に引續き市内各所に火災起れり此時南西の強風は益々募り烈風に達し加之局部の旋風各所に起りし狀況なりしかば火勢は一層猛烈となり全市恰も火の海の觀を呈し震災に死を免れたるものも最後は火災に殞るゝの悲惨に陥れり。當所の建物は木骨混凝土塗なりしを以て比較的震災に良く耐へたれば所員は全力を盡して貴重品氣象諸原簿重要書類等一切を屋外に搬出し機宜に處置せしも當所の前面風上なる外人居宅より發震後間もなく火を發したれば忽ち當所に延焼せり當所の敷地は陸地の端に位し後方は海に面せるを以て此火災に對しては安全なる地位に乏しく進退全く谷まりしかば所員は不得止原簿書類等を各

自に分割携帯し税關大棧橋に避難せんとせしも棧橋は震災のため中間已に陥没し之れに敷設せる軌道の僅に前後を連絡せるのみなりしが此危険なる軌道を渡渉し漸く前進せしも猛火の火片は宛然降雨の如く後方より吹き付け黒煙は眼瞼を刺撃し眼は開く能はず加之空氣の乾燥極度に達し呼吸は困難を感ずる状態に陥り所員中には火傷を負へるものさへありしかば此處に各自の携帯物を放棄するの止むなきに至り互に最後の決心を爲せしに幸にも棧橋突端に繫留せる外國汽船の將に離橋せんとするありしを目撃せしかば急を同船に告げ救助を求めたれば同船よりの「ワイヤ」垂下に寄り乗船することを得、船中に夜を徹し事なきを得たり。此變災の起る約十五分前に當所長朝倉技師は所用を帶び神奈川縣港務部に出頭せられたるに同所は古き煉瓦建築物なりしを以て發震の刹那全部崩壊したために同所に於て壓死せられたり（港務部の壓死者は朝倉所長とも八名なり）。當所員並に其家族中には差したる負傷者なきも所員住宅は一所員を除くの外は悉く焼失せり。

横濱市被害 横濱は大震に引續き火災各方面に起り遂に全市は猛火に包まれたることゝて倒壞家屋震災死傷等の數字は調査頗る困難にして到底正鵠を期する能はず縣下を通じて被害の甚大なりしは横濱市にして市内にても地質軟弱なる埋地方面殊に甚しく此軟弱なる土地に過重なる煉瓦若くは石材を用いて建設せる大建築物は第一の震動に於て殆んど全部崩壊したために屋内の人をして避難の暇なからしめしを以て壓死者の數頗る多し土地の龜裂斷崖の崩壊道路の陥没等亦多大なり然るに丘陵及其附近に於ては地質の堅硬及家屋構造の輕易なりしたため被害輕く斷崖の崩壊せる如きも少く土地の龜裂等殆んど認めず次に市内各方面に於ける被害の概要を叙述せん。海岸線居留地方面に於ては前述の如く煉瓦、石材建築物多きことゝて倒壞家屋夥しく殆んど全滅の状態にして耐震せるは最近建築に係る鐵筋混凝土建物なり此耐震家屋も其數僅少にして指を屈するに足るのみこれとて全部火災に罹り完全なるは一つもなく土地の龜裂亦此方面に多し其方向は一定せず或は海岸に沿ひ或は川筋に従ひ甚だ錯雜し一方抵抗力弱き個所に多く其幅は二三尺乃至七八尺に及べるあり其深さは一二尺乃至三四尺に達せるもあり土地の陥没亦四五尺なるあり川沿ひの道路は満潮時に路面潮水に浸る所もあり。又諸物體の倒伏状態を驗するに南一北乃至南東一北西最多を占ひ又一部崩壊せる煉瓦建物を視

るに南西或は北東に面せる側壁は大なる龜裂を生ぜるも崩壊せず然るに南東或は北西に面せる部分は全部崩壊して僅に残骸を存するのみ此附近に於ける堀割川の被害の大なるは南西より北東海に注ぐ谷戸川の南東及北西なる兩護岸なり之れに架せる谷戸橋(鐵橋)の如きは南東の護岸は約七八尺も崩壊し橋梁は約三十度傾斜せり。又中華民國居留地(俗稱南京街)に於ける煉瓦家屋は建設も古く且つ粗造なりしことゝて全部崩壊し何等一物の眼を遮るものなく慘害最も甚しく全滅にして夥しき死者を出し居留民の八分は壓死を遂げために彼等をして再起する能はざるの悲境に陥らしめたり當市の北東部即ち海岸寄りを除きたる他の遠き本牧、久保山、平沼、神奈川なる各方面は丘陵起伏し地質も堅硬なる關係上震災比較的軽く且つ人家も稠密ならざりしを以て火災も差して甚しからず所々に全壊半壊家屋の火災を免れたるものゝ存するあり尙被害輕微にして殆んど完全に近きもの亦少からず。

執務狀況 神奈川縣廳は火災に残りたる海外渡航検査所を震災後五日目に至り假縣廳と定め一般執務する事となれり當時混雜の狀態實に名狀すべからず當測候所も同時に同廳内二階の一隅を占め執務することとなりしも通信機關障礙のため日々所員を中央氣象臺に派し豫報警報材料の供給を仰ぎ以て之れを發布し尙ほ一般執務せり。各關係官廳はバラックの建設を急ぎ當所も亦海岸通東波止場(港務部報時信號所跡)にバラックを建設し茲に初めて獨立の廳舎に於て執務することゝなり觀測の諸器械は中央氣象臺の御配慮に因り一般を備付することを得漸く氣象觀測も開始するの運となれり。

横濱市内被害調査表 △印ハ全焼又ハ半焼

死者	傷者	行衛不明者	計	全焼又ハ全壊	半焼又ハ半壊
23,440	42,053	3,183	68,676	△ 58,981 11,615	△ 68 7,992